vinetur

日本のボージョレ・ヌーボー輸入量、今年は2004年のピークから87.5%減の見通し

サントリーはボージョレ・ヌーボーの輸入量を9リットル入り13万ケース、117万リットルと予測。かつて存在感の大きかった季節商品の長期的な縮小を示す

2026年11月20日（金）



読売新聞が11月19日木曜日に報じた予測によると、日本が今年輸入するフランス産ボージョレ・ヌーボーは9リットル入り13万ケースとなり、2004年のピークから87.5%減少する見込みだ。

予測量は117万リットルに相当する。輸入量がピークに達した2004年には、104万ケース、936万リットルを輸入していた。22年間での減少幅は91万ケース、818万リットルとなる。

この記事はライブドアニュースにも転載され、全国の輸入見通しはサントリーの予測として紹介された。つまり、この数字は確定した税関統計ではなく、企業による推計だ。輸入額は報じられてい

ない。

また、2025年の全国合計も示されていない。この数字がないため、入手可能な情報から日本市場の前年比を算出することはできない。87.5%という数字が示すのは、2004年のピークと今年の予測値との比較に限られる。

ボージョレ・ヌーボーはブランド名でも、独立したワインのアペラシオンでもない。この名称は、フランスのボージョレ地方でボージョレおよびボージョレ・ヴィラージュのアペラシオンに基づいて造られる若飲み向けのワインを指す。したがって、日本の輸入量の数字が示すのは特定の季節商品カテゴリーへの需要であり、フランスワイン全般や輸入ワイン全体の動向ではない。

ワイン貿易の数量は、一般に750ミリリットル瓶12本に相当する9リットル入りケースで報告される。この換算では、今年日本に入る見通しのワインは標準的な瓶で約156万本となり、2004年のピーク時の約1,248万本と比べて大幅に少ない。日本が同カテゴリーで特に存在感の大きい海外市場の一つだった時期から、どれほど縮小したかがうかがえる。

報じられた数字は、日本におけるフランスワインのよく知られた一分野が長期的に縮小していることを示すものだ。輸入ワイン市場全体の急落を示すものではなく、今年だけで起きた減少と捉えるべきでもない。減少は20年以上にわたるもので、ボージョレ・ヌーボーの輸入に限られる。

この記事の報道時期も重要だ。ボージョレ・ヌーボーは新酒として販売され、特定の販売シーズンと密接に結び付いている。日本ではそのため、ワイン販売全体に占める割合を超えた知名度を長く保ってきた。それでも、11月19日木曜日に伝えられた予測は、輸入規模が2000年代初頭を大きく下回っていることを示唆している。

小売業者、流通業者、生産者にとって、今回の予測は、かつて存在感の大きかった輸入カテゴリーの変化を限定的ながら明確に示す指標となる。対象は日本向けに出荷されるボージョレ・ヌーボーのみで、数量はケース数で示されている。ライブドアニュースが転載した記事には輸入額の公表データがなく、2025年の比較可能な全国値も掲載されていない。